

梅窓院通信

No.140

2026/01/01

青山

日々の祈りを受けとめてくださる御本尊

さて、昨年の報告からですが、梅窓院の開基である青山家、現在の第十四代当主による第十五代当主を任命する奉告式が行われました。東京と郡上にそれぞれ青山家のご当主がいらつしやることになります。詳しくは本紙の特集をご覧ください。

コロナ明け初となる文化講演会でしたが、浄土宗僧侶ながら世界で活躍されるアーティストの西村宏堂上人、メイクをしたお坊さんにご講演をいただきました。ご案内直後から多数のお申し込みをいただき、大盛況の講演会となりました。ありがとうございました。ご希望に添えられなかった皆さまにはお詫び申し上げます。

さて、今年の話に移ります。この『青山』新年号が檀信徒の皆さまのお手元に届くのは年末となります。すでにお正月のご予定を決めている方も多いかと存じますが、ぜひ、三が日に初詣で梅窓院にお越しください。ご先祖さまへのご挨拶から新年をスタート、良い一年にしたいだけばと切に望んでおります。

続いては、樹木葬墓地「梅林苑」の改修工事のお知らせです。梅窓院境内にある樹木葬ですが、希望される方が多く、現在の形では受け入れが難しくなりそうな状況となっています。ですので、さらなるご利用希望の方にお応えできるよう改修することになりました。現在、区画には全部で九本の梅の木が植えてありますが、その梅の木を一時移植し、区画内の石と土を整理する予定です。整理後は梅の木が少し減るかもしれませんが。

最近はお墓の形が様々に変化しています。梅窓院ではそうしたニーズに応え、いろいろなお墓を用意してきました。そうした中で対応とご理解いただき、一月上旬から二月にかけての工事となりますが、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この一年も皆さまにとりまして、良い一年になることを心より祈念申し上げます。

住職挨拶

令和八年の新年を迎えるにあたり、梅窓院の職員一同を代表して年賀のご挨拶を申し上げます。

「新年あけましておめでとうござい
います。本年も梅窓院をよろしくお
願い申し上げます」



梅窓院第二十五世

中島 真成

仙教歳時風物詩(71)

陽暦二月、寒の内

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

一 年十二か月の最初の月の一月は、俳句の歳時区分では冬の部に

に入り、季の区分では晩冬ということになる。この陽暦一月はまた正月であるが、正月とすれば新年の部に入り、陰暦の呼称である睦月は春の部に入る。歳時記の項目立てにまずは注意を要するところである。

さて、新玉の新年の最初の一月は、実は年賀気分が三日を過ぎると、暦の上では五日頃に寒の入り、すなわち小寒が十五日、それに続く大寒が十五日と次第して、二月四日頃の立春と、一年中でもっとも寒さのきびしい寒三十日の厳冬ということになる。そこで、新春初春というおめでたい慶賀吉事の中で、冬の寒気・冷気に合わせながら生活をする寒の内、暮らしぶり、心模様的一端を秀句を拾って鑑賞してみたい。

一月や日のよくあたる家ばかり

(万太郎)

一月や枯れ木の肌の日のぬくみ (政二郎)

まずは一月の句。いずれも慶応大学出身のよく知られた小説家である。久保田万太郎は「日のよくあたる」閑静な佇まいの家並をおだやかに眺めている。小島政二郎は、冬枯れの木肌に「日のぬくみ」のやさしさを感じ取っている。冬の寒さの中の太陽の温かい恵みとともに、新しい年の最初の月を過ごし合いながら、この一年の無事平安を思い

願う心も添えられているのであろう。

踏み踏みて落葉微塵や寒の入 (嬬無公) 高々と微塵の鳥や寒の入 (波郷)

微塵という仙教語の入った寒の入りの句。微塵とは、きわめて小さいもの、目に見える最小のものということで、サンスタリット語ではパラマータという。白田亜浪門下の飛鳥田嬬無公はびつしりと散り敷いた落葉の大地を踏みしめて、また石田波郷は高空を高く飛び交う小さな鳥たちを仰いで、そこに寒に入る節目を見出したのである。

さて寒の入り、寒入りすなわち小寒から大寒へと、その約三十日間がいわゆる寒の内であり、単に寒とも、寒中ともいう。さらに寒の入り四日目を寒四郎、九日目を寒九と称して寒さの中の区切りをつけている。そしてやがては寒明けの前日、節分を経て、二月四日頃の立春に至るのである。この間、寒参や寒行や寒念仏、あるいは寒稽古や寒中水泳などさまざまな寒中の営みがある。

王羲之模す小寒の卓拭き浄め (悦子) 大寒の明日へきちんと枕置く (眸) 何ともなき足大切や寒の内 (かな女) お陰さま己が齒磨く寒四郎 (美佐子) 寒の日の爛々とわれ老ゆるかな (宋淵) 大石悦子は、書聖王羲之を臨書すべ

く、まず机を丁寧になぐり清めて静かに坐る小寒の日である。岡木眸は、大寒の前夜、枕をきちんと丁寧に置いて寝に就くのである。冬の寒さのきびしさを身構えて、心構えて、一つ一つ整えてからいたして行こうとする心掛けが慕わしい。

長谷川かな女は、一步一步の歩みをする我が足を、「何ともなき」ことではあるが、やはり寒さにきびしき折柄、いたわらずにはおられない。高志美佐子は、寒四日の早朝、歯磨きをしながら生きたことのありがたさをおだやかに感じている。そして中川宋淵老師の一句。「爛々と

われ」という中七に、禪の大家の大家が確と詠み込まれているようである。

私も今、老いを重ねて行く身にあつて、歯のことも足腰のこともしっかりとさせて、小さなこと一つ一つに対して丁寧に向き合せて、一歩ずつ前へ進みたいと思う。

寒中御見舞い申し上げます——、という思いも込めて一文を綴ってきたが、冬深く、凍てつく寒さ、身を切るような冷たさの朝晩によく耐えて、よく忍んで、やがて来る日の温かさを心待ちにしたい。寒暑を乗り越え、寒威に打ち克つて、おだやかなやさしい温暖の時候を迎えたものである。寒さのきびしさをみずからの身心を鍛え励ますものとありがたく受けとめて、あらためて寒中・寒の内三十日を、あだやおろそかにすることなく、一歩一歩しっかりと踏みしめてともに歩み合いたい。 (大正大学名誉教授)

九・十・十一月の

行事報告

秋彼岸会法要・

彼岸寄席

9月23日(火)



多くの方がお墓参りにいらしてました。

第90回
念仏と法話の会
10月10日(金)



ベトナム慰霊法要

十夜法要・法話
11月15日(土)



秋彼岸寄席
三遊亭歌る多師匠





修正会

しゅうしょうえ

2026年1月1日(木)

修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

※行程や場所は変更になる場合がございます。

※元日に温かいお茶の配布をいたします。なお、数に限りがございますので予めご了承ください。

絵馬について 新年のお参りに来ていただいた方にお配りしている絵馬は、元日のみ1軒に1体のお渡しとさせていただきます。
2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付けください。
2体目から1体1000円でお譲りいたします。

暦について 各檀信徒の皆様には1部同封させていただきました。
2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかハガキ)にてお申込みください。
2部目から1部1000円でお譲りいたします。

修正会とは

新年を迎えて最初の法要が修正会です。
浄土宗では祝聖文(しゅくしょうもん)という回向文を称えます。
天下泰平、平穏な日々を願う言葉が並び、昔も今も大切にしてきたお経のひとつです。

修正会によせて

謹んで新年をお祝い申し上げます。

月かげのいたらぬ里はなけれどもながむる人の心にぞすむ

この和歌は法然上人が詠まれた「月かげ」のお歌で、浄土宗の宗歌にもなっています。

《意味》

月の光はすべてのものを照らし、里人にくまなく降り注いでいるけれども、月を眺める人以外にはその月の美しさはわからない。それと同じように阿弥陀仏の救いの光は、すべての人々に平等に注がれているけれども、その慈悲のみに気づき、手を合わせて「南無阿弥陀仏」とお念仏を称える人は、阿弥陀仏の救いをいただくことができます。

最近観たアニメ名探偵コナンの映画で、子供達が口喧嘩をしてしまうシーンがありました。そのときコナンが喧嘩している二人にかけた言葉は、「一度口から出してしまった言葉は元には戻せないんだ、言葉は刃物だ。使い方を間違えると厄介な凶器となる。すれ違いで一生の友達を失い、二度と会えなくなってしまうこともあるんだ」と。そう言う二人は互いに謝り仲直りをしました。

実はコナンは大人ですので、子供達にとって大切なアドバイスをしてくれましたが、幼い頃だけではなくとも日頃の生活の中で、私たちはちよとした些細な意見の食い違いで仲違いをしてしまうことがあります。

月かげは阿弥陀様の救いの光。夜の暗闇は私たちの無明。

自分がどこにいるのかも、どこに行きたいのかもわからない暗闇。道理のわからない心が私たちには生まれる前から具わっています。阿弥陀様はそんな私たちに「我が名を唱えて極楽浄土へ生まれることを願えよ」と道筋を光で照らしてくださっています。私たちは他者を思いやりたくても自分のことを優先してしまいます、身勝手な私たちの心に気づくことが大切です。

コナンのように私たちに道を示してくださるのが阿弥陀様なのです。「私たちの無明の心から発してしまう言葉は、人と人を離ればなれにしてしまうこともあります。私たちが無明の心であっても称える南無阿弥陀仏の声は阿弥陀様が、その耳で聞いてくださり、私たちを近づけてくださるのです」

ありがとうございます、そして、南無阿弥陀仏を声に出せる人になつていく、皆様にとつてそのような心穏やかな一年になりますよう祈念申し上げます。

修正会へのお参りを心よりお待ちしております。本年も宜しくお願ひいたします。

(法務部 瀧沢孝彦 合掌)



梅窓院開基 青山家

第十五代当主に青山幸紀さんが指名されました

梅窓院がこの青山の地に創建されたのは今を遡ることおよそ四百年前の寛永二十年、一六四三年でした。徳川家康公以来の家臣、青山幸成公よしなりの下屋敷を境内として幸成公と側室の戒名から、長青山寶樹寺梅窓院せいらんほうじゅじ ばいそういんと名付けられました。

まさに青山家あつての梅窓院です。その青山家は代々続き、現在の当主は第十四代。そして今回、第十五代当主が決まりました。その経過を後見人の青山幸文様ゆきふみに伺いました。



青山家第十五代当主を指名する奉告法要が梅窓院の本堂で厳かに行われ、第十四代当主が本尊、阿弥陀如来様の御前で報告された。写真上は第十四代(右)と第十五代が並んでの記念写真。

令和七年六月二十日、例年どおり「郡上踊りイン青山」の法要が梅窓院本堂で行われました。青山家累代への奉納踊りと墓参を御先祖様方は楽しみにしておられたことでしょう。港区・南青山・郡上市の皆様おそろいのこの機会に、当家の懸案事項でもありました襲名の事案を挙行させていただきました。



郡上八幡城と第十五代青山幸紀様。第十五代は郡上八幡にお住まいで、郡上八幡城の案内などをされています。

私は先代・十三代幸壽ゆきなの遺言により、十四代当主後見人を務めており、又家長としての立場から青山家の未来を考えておりました。

私の長男であります現当主十四代幸喜ゆきよしには、嫡男がおりませんので、継嗣けいしに実弟幸紀ゆきのりを指名することと致しました。年齢差が十三歳と近いこと、弟が郡上に



奉告法要後の記念写真。

二代のご当主に後見人夫妻、郡上市長、梅窓院住職、そして、郡上と梅窓院の関係者での賑やかな一枚となりました。

在住して観光の仕事に従事していることから、お尋ねが多くある事なども考慮し、力を合わせて家を守るため、活動しやすくなる事を優先し、十四代と十五代が並列することと致しました。

この事は、四百年前江戸時代初期、青山忠成公の決断に習いました。忠成公は二人の息子に青山家の未来を託しました。兄・忠俊は後の丹波篠山藩、弟の幸成は美濃郡上藩へと徳川二百七十年を譜代大名として支え、二家は諍いもなく、兄弟支え合って現在に至っております。互いの家に嫡男が途絶えた時は、互いの家から養子で継承してきました。私の父幸高は、両家は同格であると言っておりましたのはそういう事であったと推察致します。

梅窓院は幸成公の御霊を弔うため側室であり二代目当主幸利の母・長青院が、当時の青山家下屋敷地の中に建立したお寺です。累代の当主・その家族・家臣の多くが眠るこの地は長い年月多くの人に守られてきました。当家にとりましても特別な場所

であります。

謹んで、累代各位に御奉告申し上げ、十四代当主が宣言することと儀礼とさせていただきます。

皆様には百年先までもお力添えをお願い申し上げご挨拶いたします。

青山家十四代後見人 青山幸文

開山と開基

お寺が建立される時、なくてはならないのが、そのお寺の住職となる僧侶と境内地や伽藍を寄付する大檀越です。そして、この僧侶を開山と呼び、大檀越を開基と呼びます。皆さんがご存知のところでは、浄土宗大本山の増上寺は、徳川家康公が開基で、開山は梅窓院の贈り開山でもある観智国師になります。

どんなに時が過ぎても歴史は変わりません。梅窓院にとつて、そして、その梅窓院にご縁を結ばれた皆様にとつても開基の青山家は特別な存在になるのです。

ユニケルやマスコットキャラクター「サトちゃん」でおなじみの佐藤製薬は、一般用医薬品（市販薬）や医療用医薬品を製造・販売し、本社を港区元赤坂に構えています。今回は、佐藤製薬株式会社 代表取締役社長 佐藤誠一様にお話を伺いました。

◆本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

佐藤誠一社長兼CEO（以下佐藤） こちらこそお越しいただきありがとうございます。

◆梅窓院に墓地を建てられたのが1999年（平成 11年）とのことですが、その経緯を教えてください。

佐藤 私の祖父母の墓は、川崎市生田にありました。東京から遠く、お参りが容易ではありませんでした。そのため父の代に創建380年以上の歴史を有し、立地が良い梅窓院へと移しました。梅窓院は青山通り沿いに位置し、佐藤製薬の本社からも近いため、お参りがしやすくなりました。私自身もよくお参りに訪れています。

◆これまでスポーツ選手や著名人を広告に起用されている理由や、その狙いについてお聞かせください。

佐藤 佐藤製薬は、生活者の健康に貢献することを目的に活動しています。ユニケルでは、ブランドアンバサダーとしてイチローさんに続き、今年からMLB・ドジャースの山本由伸選手を起用しました。若年層から高齢者まで幅広い世代の健康を支えていきたいとの思いから、健康的なイメージを持つスポーツ選手や著名人を起用しています。また、かぜ薬「ストナ」には浅田真央さん、歯周病治療薬「アセス」には春風亭昇太さん、解熱鎮痛薬「リングル」には松下奈緒さん、胃腸薬「オメプラールS」には稲垣吾郎さんを起用しています。

◆創業から100年を超える企業として、現在も変わらず大切にされている精神・理念があればお聞かせください。

佐藤 佐藤製薬は、2025年8月に創業110周年を迎えました。「ヘルスケア イノベーション」が佐藤製薬の企業理念です。人々の生活向上をサポートし、持続可能な社会づくりに貢献するとともに、さらなる「ヘルスケア イノベーション」を推進していきます。これからもOTC医薬品や医療用医薬品を中心とした健康関連事業を通じ、生活者



談笑を交わされた後、笑顔で記念の一枚。

の健康に寄り添いながら、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

◆キャラクターのサトちゃんを登場させた経緯を教えてください。

佐藤 ゴウは長生きで健康的、かつ明るいイメージを持ち、子供から大人まで幅広く愛されていることから、1955年に「健康と長生きのシンボル」として、マスコットキャラクターに選びました。

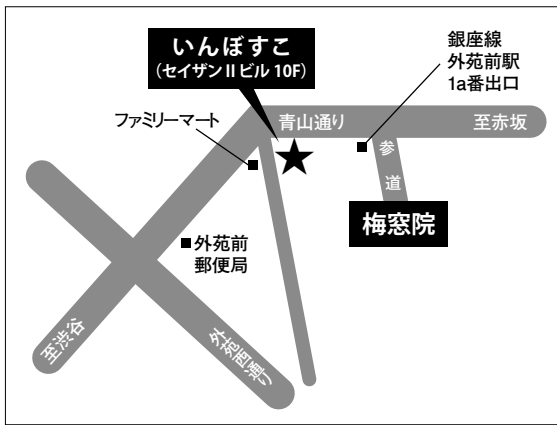
その後、1959年に皇太子殿下（現・上皇陛下）のご成婚を記念し、キャラクター「サトちゃん」を発表しました。

◆最後になりましたが、佐藤社長ご自身が日々の健康づくりにおいて意識されていることがあれば、ぜひ教えてください。

佐藤 健康維持のために日々運動を心掛けていますが、毎日欠かさずユニケルを飲むことです。ユニケルを飲むことで一日を元気に過ごすことができ、健康維持にもつながっています。

プロフィール

佐藤誠一（さとう せいいち）佐藤製薬株式会社 代表取締役社長兼CEO。1959年東京都生まれ。慶應義塾大学理工学部卒業後、米国 Babson College にてMBAを取得。1986年佐藤製薬入社、1995年代表取締役社長に就任。これまでに日本OTC医薬品協会会長、日本医薬品直販メーカー協議会会長、アジア太平洋セルフメディケーション協会会長などを歴任。現在は各協会副会長を務めるほか、公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 理事長も務める。



営業時間／ディナー18:00～21:00

定休日／日曜日、月曜日

※最新情報はお店へご確認ください。

席数／10席

住所／東京都港区南青山2-26-34 セイザンⅡビル 10F
ご予約はOMAKASEよりお願いいたします。

店名はイタリア語で「森の中へ」という意味。料理はイタリアンにとらわれず、全国から厳選した旬の最高級食材を、それぞれに最もふさわしい調理法で丁寧に仕上げます。季節の移ろいに寄り添いながら、料理人の感性と哲学が一皿一皿に映し出される美食が味わえるのが魅力です。



コースに登場する“ラーメン”は、シェフの奥様のご実家が製麺屋さんで、奥様もラーメン屋さんで働いていた経験があるからこそ作れる特製の一杯。鶏は希少な「シャモロック・ザ・プレミアム#6」を使用。

2025年8月、外苑前駅1a出口から徒歩30秒の新築ビルの最上階に、新たな美食の名店が誕生しました。その名は「いんぼすこ」。

中島住職とも親交のあるオーナーシェフ・渡部敏毅さんが手がけるこの店は、青山という洗練された街にふさわしい、上質な料理と時間を提供する完全予約制のレストランです。



渡部シェフは、イタリア料理の名門エリオグループにてサービス、調理、マネジメントの経験を積みました。独立後は小石川、神宮前、そしてこのたび青山へと店舗を移しながら、長年にわたり研鑽を重ねてきました。サービスの視点を活かしたもてなしも、お客様一人ひとりに寄り添った上質な料理を提供しています。

食材はもちろん、カトラリーや器、空間の細部にまで心配りが行き届き、訪れる人を非日常の世界へと誘います。味覚のみならず、五感すべてを満たす特別な時間がここにあります。

「いんぼすこ」は、世界トップクラスのレストランを目指すとともに、どなたでも心地よく過ごせる“青山の隠れ家”として、多くの方々に親しまれていくことでしょ。

特別な一日を、大切な方と。そんな時にぜひ訪れていただきたい一軒です。

青山俳壇〈最終回〉

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○こおろぎが鳴き止み刀自の大欠伸

◎入選

○葡萄パフェ話咲かせる旅帰り

○書を閉じて栗こはんへと心寄せ

○金木犀目抜き通りにほひある

○秋深し雲の流れのゆつたりと

○曼珠沙華向きそれぞれに揺れている

○秋めく日マツケンサンバ盛り上り

○庭先に栃の実を干す山の家

○うろこ雲ジェットフェリーが軽やかに

○秋刀魚見ていまの季節に気づく夜

◎選者詠

○棒稻架の棒に鳶が止まりある

大崎 紀夫

へお別れのことば

長い間おつき合いただいたこの欄が、今回で終了となります。終了となりますが、俳句作りはぜひお続けください。「継続は力なり」という言葉はすべてに通じるものですが、特に俳句に当てはまるものです。早く上達するには、ひとりで作句するのはなく、自分に合った句会、結社に参加するのもいいかもしれません。

本当に長い間のおつき合い、ありがとうございました。みなさまのご健吟を祈念いたしまして、お別れの言葉とさせていただきます。

ジャパンエキスパートシステム墓苑事業部からのお知らせ

本年もよろしくお願い申し上げます。歳のせいでしょうか、時が経つのがさらに早くなったように感じます。ところで以前、皆様との連絡手段でメール、ラインが増えたとはお伝えいたしましたが、墓苑申込時と連絡先が変わっておられる方が多くなりました。ご自宅の固定電話も外され、今は携帯電話のみになったお宅も多いようです。変わられたことが、当社の彫刻・工事担当者の悩みのひとつにもなっております。

墓石に彫刻をする際、ご家族の名前の登録をさせていただいていますが、住所を移転されていたり、メールアドレス登録も無いなど、連絡するのが難儀だと泣いております。梅窓院からご葬儀の後などに新しいご家族情報などをお伺いしておりますが、事前にご家族様の新情報などをお知らせいただけるとありがたい限りでございます。

info@expert.co.jp こちらに今のお施主様のお名前でもメールいただけましたら、お伺いしたいことをご案内いたしますのでぜひご協力をお願いします。もちろん、梅窓院墓苑ラインお友達追加でも結構です。皆様とのご縁だけではなく連絡も途絶えることが無いよう願っております。(墓苑事業部 森)



お友達追加

墓苑部LINE友だち追加用QRコード。お問合せはこちらから



墓苑部メールアドレスQRコード

お知らせ 消防訓練

11月19日(水)梅窓院では消防訓練を行ないました。僧侶や職員が消火活動を実践し、より一層防災意識を高めました。



行事予定

第91回念仏と法話の会

2月18日(水)

時間 13時～(受付12時30分より開始)

法話 お寺が地域とできること

講師 秋田県 九品寺 津村侑弥上人

令和7年度 後期 仏教講座のご案内

受講無料・場所 梅窓院祖師堂

講座: 13時～15時(受付12時30分より)

講題: 般若経の要諦―「大乘仏教を理解する」シリーズ(13)

講師: 勝崎 裕彦 先生(大正大学名誉教授、香蓮寺住職)

第2回 1月22日(木) 菩薩の階位―四種菩薩

第3回 2月12日(木) 般若波羅蜜義・菩薩摩訶薩義―親近善知識・遠離惡知識

講題: 日本仏教の歴史⑦

講師: 林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺住職)

第1回 1月15日(木) 親鸞上人

第2回 3月26日(木) 一遍上人

講題: 『観無量寿経』を読む①

講師: 阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

第3回 2月26日(木) 「序分」を読む③

講題: 「仏教民俗学」再考(4)

講師: 本林 靖久 先生(大谷大学、佛教大学講師、浄土真宗妙成寺住職)

第2回 1月23日(金) 庶民信仰―擬死再生と逆修―

第3回 3月 6日(金) 仏教民俗学の課題―真宗と民俗の対話―

お檀家さんに伺いました

令和7年 秋彼岸会法要にて

『平和を願って』

春と秋のお彼岸には必ずお参りに来ておりまして、今年の秋彼岸法要にも参加させていただきました。父が亡くなった年齢九十一歳を健康なままで越えたいと思っております。

中瀬家は先祖代々、青山藩の門弟付きの医者の家系だったもので、曾祖父は江戸屋敷で雇われた医者でしたが、郡上八幡にも足を運んだことがあったようです。

梅窓院は昔と比べて建物も立派になり、お檀家さんも増えたように思います。

これからもお寺の行事を通してお檀家の皆さまと手を携えながら、二度と戦争の起きぬようお寺として平和を守っていただければ何よりと存じます。

令和8年 年間行事予定

※予定は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

◆修正会法要 1月1日(木)

◆第91回念仏と法話の会 2月18日(水)

◆春彼岸会法要・寄席・物産展 3月20日(金)

◆はなまつり 4月2日(木)～8日(水)

◆第92回念仏と法話の会 6月開催予定

◆盆施餓鬼会法要 7月13日(月)

◆秋彼岸会法要・寄席 9月23日(水)

◆第93回念仏と法話の会 10月開催予定

発行 梅窓院
発行日 令和8年1月1日
発行人 中島 真成
編集 梅窓院 広報部
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38

電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8107
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡